

## 元気になるろう

鳴りひびくサイレン

悲鳴

泣き声

真っ黒い津波<sup>つなみ</sup>がやってきた

真っ黒の街に燃え上がる炎<sup>ほのお</sup>

空からは真っ白い雪<sup>ふゆ</sup>が降ってきた

私の頭<sup>かぶ</sup>は真っ白になった

何も聞こえない

津波はみんなのみこんだ

楽しかった思い出の場所も

大切な家も

学校も

みんなみんなのみこんだ

何も見えない

聞えない

転校した私

前とは違う<sup>ちが</sup>通学路

前とは違う教室

みんな元気かな

会いたいな

帰りたいな

心はさみしさではちきれそう

だけど私は生きている

生かされたこの命

なぜ生かされたのだろう

私に何ができるだろう

考えていたらちょっと力がわいてきた

さみしさも力にして元気を出そう

さみしい心もふるさとも

いつか必ず元気になる

そう信じてる



当時の小学生の震災<sup>しんさい</sup>体験から引っこしにより地元をはなれたさびしさについて考えてみましょう。また、むかえる側の温かい<sup>たいおう</sup>対応について話し合ってみましょう。

(作文宮城 60号 特別編『あの日の子どもたち』より)